

## 看護部

### 【看護部管理体制】

看護部長：野中 理佳

副看護部長：村上 美香(教育担当)、平山 恵(業務担当)

看護師長：9名

副看護師長：21名

### 【看護部理念】

「患者さまの人権を尊重し、心あたかな看護を提供します」

### 【平成 30 年度 看護部目標】

スローガン「お互いさま・おかげさまの風土づくり」～仕事と生活の充実～

1. 看護の質の向上を図る
  - ① 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
  - ② ケアの見える看護記録の充実
  - ③ ベッドサイドケアの充実
2. 医療チームの一員として他部門と連携し、経営効果を考慮した看護が提供できる
  - ① 看護業務を改善し効率化を図る
  - ② 入院前から効果的な退院支援を行い、継続看護の充実を図る
  - ③ 院内連携の強化

### 【平成 30 年度の総括】

平成 30 年度は、常勤看護職員 177 名、非常勤職員 46 名(ケアワーカー 22 名含む)、合計 223 名からスタートしました。年間の常勤職員に関しては、総採用数は 13 名(うち新卒 5 名)、退職者数 10 名、離職率は 5.6%(新卒新人の離職者は 1 名で離職率 10%)で前年度より 0.7 ポイント減少しました。離職率の低下は、働きやすさを判断する目安になると思います。また、人員の確保には、入職者を増加させるだけでなく、現在働いている看護職が当センターで働き続けたいと思ってもらえるように、多様な勤務形態を提供し、働く環境等を整えていくことが重要と考えています。

今年度、看護部では主に入院前からの入退院支援に力を入れ取り組みました。4 月開設の「入院支援室」を中心に、外来・入院支援室(多職種)・病棟がどのように連携するかシミュレーションを重ね、患者問題の把握、計画立案、ケア会議・カンファレンスの開催等ができるようにするなど、部署毎に目標を立て実践しました。診療報酬改定もあり外来で実施しておくべきことが増え仕組み作りで精一杯でしたが、一人一人が意識を高め、看護師としての役割を果たすことができました。退院支援での問題は、高齢化社会となり独居や老老介護、入院時の希望退院先が変更となり退院先が決まらないなど、退院困難な患者さまが増加しています。患者・ご家族の思いに添った支援、地

域の多職種との連携はまだまだ不十分であり、今後は先を見据えた入退院支援の取り組みができるようにしていきたいと思えます。

### 【看護職員数】(平成 31 年 3 月 31 日現在)

職種	常 勤	非常勤	合 計
保健師 ※	2 名	0 名	2 名
助産師	5 名	2 名	7 名
看護師	157 名	16 名	173 名
准看護師	10 名	6 名	16 名
ケアワーカー	0 名	22 名	22 名
合計	174 名	46 名	220 名

※保健師数は保健師としての業務をしている人数を表す

### 【年度別職員状況】

	28 年	29 年	30 年
離職率	10.2%	6.3%	5.6%
退職者(定年含む)	19 名	11 名	10 名
年度別採用者	20 名	18 名	13 名
常勤看護師数	176 名	174 名	174 名

### 【年度別看護師平均年齢】

	28 年	29 年	30 年
看護師全体	40.2 歳	40.2 歳	40.9 歳
師長	50.8 歳	50.8 歳	51.8 歳
副師長	48.9 歳	48.8 歳	47.8 歳
スタッフ	38.6 歳	38.5 歳	39.9 歳
新採用者のみ	35.3 歳	35.2 歳	31.8 歳

### 【看護体験受け入れ】

- ・高校生の 1 日看護体験(熊本県看護協会)
- ・鹿本高校生インターンシップ
- ・中学生職場体験学習

### 【看護学生臨地実習受け入れ】

- ・鹿本医師会看護学校
- ・城北高等学校(看護科、看護専攻科)
- ・玉名中央女子高校(看護学科、看護専攻科)
- ・九州中央リハビリテーション学院
- ・熊本保健科学大学

・九州看護福祉大学

### 【看護の日の行事】

場 所：正面玄関ホールにて開催

内 容：血圧・血糖・身長・体重・体脂肪の測定、栄養等の各種相談、介護用品の展示

参加者：約 50 名

### 【認定看護師】

緩和ケア認定看護師	1 名
感染管理認定看護師	1 名
がん化学療法看護認定看護師	2 名
救急看護認定看護師	1 名
認定看護管理者	3 名

### 【資格取得者】

認定看護管理者ファーストレベル修了者	9 名
認定看護管理者セカンドレベル修了者	6 名
認定看護管理者サードレベル修了者	3 名
日本糖尿病療養指導士	3 名
地域糖尿病療養指導士	3 名
アドバンス助産師（ラダー レベルⅢ）	3 名
消化器内視鏡技師	6 名
呼吸療法認定士	2 名
実習指導者講習会	19 名
熊本県新人看護職員研修責任者等研修(教育担当)	4 名
訪問看護管理者研修	1 名
訪問看護師養成研修会	5 名
ケアマネージャー	8 名
退院支援看護師養成講習会	4 名
ICLS	27 名
ACLS プロバイダー	4 名
BLS プロバイダー	6 名
NCPR インストラクター	1 名
NCPR (A コース)	5 名
NCPR (B コース)	6 名
救急救命士	1 名
栄養サポートチーム専門療法士	1 名

## 部門別活動状況 【看護部】

禁煙サポーター	3名
ストーマケアナース学習会	7名
肝炎コーディネーター	4名
ELNEC-J (指導者)	17(1)名
リンパ浮腫セラピスト	2名
がん支援相談員	2名
看護師に対する緩和ケア教育の指導者研修	1名
Psychological First Aid	1名
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 (PEACE)	16名
がんリハビリ	1名
人間ドック健診情報管理指導士	3名
ピンクリボンアドバイザー (中級)	2名
ピンクリボンアドバイザー (初級)	1名

## 外 来

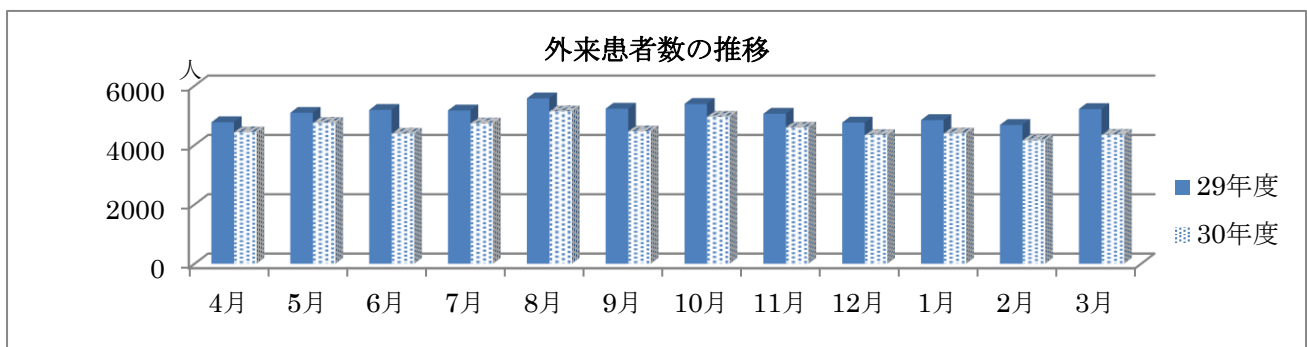
### 【外来の概要】

〈一般診療科〉

内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌・代謝内科、消化器内科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、乳腺外科、総合診療科、救急外来

〈特殊・専門外来〉

禁煙外来、睡眠時無呼吸外来、小児科予防接種、糖尿病外来、ストーマ外来、女性外来、PEG 外来、両親学級、セカンドオピニオン外来、化学療法外来、緩和ケア外来



### 【平成 30 年総括】

外来は、一般診療科に併せて手術、内視鏡、化学療法でも治療が行われており患者総数は減少していますが、がん診療連携拠点病院でもあるため、腫瘍内科や緩和ケア内科の診療や肝動脈化学塞栓術も行われ、看護師も専門的知識が必要となっています。

平成 30 年度の診療報酬改定により、入院時支援加算が新設され外来で入院前に患者の情報から退院困難な要因の有無をアセスメントし、スムーズな退院に結びつくような支援が必要となりました。

退院調整スクリーニングや褥瘡や栄養の評価、患者情報の入力など外来で行えるように取り組みました。

### 【スタッフ】

看護師長：辻崎 小百合

副看護師長：福田 純子、竹熊 理恵、竹田 由香里、豊福 貴子、原田 康恵

看護師：24名 非常勤看護師：16名 ケアワーカー：1名

### 【外来目標】

1. 看護の質の向上を図る

- ① 臨床現場に対応できる知識・技術の向上  
診療報酬改訂内容や入退院時支援の勉強会の計画・実施
2. 医療チームの一員として他部門と連携し、経営効果を考慮した看護が提供できる
  - ① 入院から効果的な退院支援を行い、継続看護の充実を図る  
入退院時支援で必要な記録項目の入力方法マニュアルの作成
  - ② 看護業務を改善し効率化を図る  
業務の効率化を目指し、時間外勤務の縮減

**【今後の課題・展望】**

- ・リーダー業務を確立し、効率良く診療や検査が行えるようスタッフの教育や協力体制を強化
- ・看護の質の向上を図るため、勉強会を継続して行う
- ・病棟や他部署との連携を大切にし、入退院支援や継続看護の充実を図る

## 2 階 病 棟

### 【病棟の概要】

病床数：40床 HCU：6床

診療科：外科、婦人科

### 【平成 30 年度総括】

当病棟は、外科・婦人科・消化器内科の混合病棟であり、救急外来・HCUも担当しています。急性期看護・周術期看護と患者さまの状態に応じた看護が提供できるよう、医師へ疾患についての勉強会を依頼し、教育委員を中心に BLS の勉強会を行ない、知識・技術の向上に努めました。救急外来や HCU で、病棟では経験できないような処置などがある場合は、情報を共有しスタッフへ声かけを行ない経験することができました。また、業務マニュアルやクリティカルパスの作成・改定を行ない統一したケアが行えるよう努めました。

### 【平成 30 年度入退院状況】

	延べ入院患者数	新入院患者数	転入患者数	退院患者数	転出患者数	平均在院日数	病床利用率
2階病棟	10,433人	907人	19人	869人	63人	11.2日	71.5%
HCU	53人	11人	6人	7人	10人	3.1日	2.4%

### 【平成 30 年度 手術件数】

	全身麻酔	脊椎麻酔	局所麻酔	合計
外科	192	2	10	204
婦人科	47	6	0	53

### 【スタッフ】

看護師長：矢野 悦子(認定看護管理ファーストレベル)

副看護師長：江藤 千鶴、堤 麻希、石原 千佳

看護師：30名 准看護師：2名 ケアワーカー：5名

### 【病棟目標】

- 看護の質の向上を図る
  - ① 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
  - ② ケアの見える看護記録の充実
  - ③ ベッドサイドケアの充実
- 医療チームの一員として他部門と連携し、経営効果を考慮した看護が提供できる
  - ① 看護業務の改善と質の標準化

② 入院前から効果的な退院支援を行ない、継続看護の充実を図る

**【今後の課題・展望】**

- ・救急外来・HCU に対応できる看護師の育成
- ・新人教育・リーダー教育に力をいれ、看護の質の向上に努める
- ・環境整備を行ない、患者さまの過ごしやすい入院環境を整える



## 3 階 病 棟

### 【病棟の概要】

病床数：50床(感染症病床4症)

診療科：一般内科、緩和ケア内科、呼吸器内科、総合診療科、循環器内科、  
消化器内科、代謝内科

### 【平成30年度入退院状況】

	延べ入院 患者数	新入院患 者数	転入 患者数	退院 患者数	転出 患者数	平均在院 日数	病床利用 率
3階病棟	14,771人	949人	38人	879人	110人	15.0日	80.9%

### 【種別患者数】

消化器系疾患	呼吸器系疾患	悪性腫瘍	循環器系疾患	代謝疾患
248(28.2%)	142(16.2%)	118(13.4%)	114(13%)	80(9.1%)

### 【スタッフ】

看護師長：米加田 美和(認定看護管理セカンドレベル)

副看護師長：山口 さとみ、徳永 綾香、古閑丸 由希

看護師：22名 准看護師：4名 ケアワーカー：6名

### 【病棟目標】

- ①新人教育を充実し、チームメンバーとしての役割を理解し業務ができる
- ②看護サマリーの記載率を向上させる
- ③褥瘡危険因子再評価を行い、患者に合った予防策がとれる
- ④薬剤科と連携し、内服自己管理に向けて患者指導を充実させる
- ⑤ケアの充実とオムツ交換回数を見直し、看護業務の効率化を図る
- ⑥ケア会議を定着させ、退院支援の充実を図る

3F病棟は、内科の混合病棟です。消化器疾患の患者を中心に内視鏡検査や化学療法導入、呼吸器管理・重症管理など業務が煩雑な中で、看護の質の向上と業務改善を目標にしました。

また、2人の新人看護師の教育を行いながら、看護サマリーの記載や褥瘡危険因子評価など記録の充実と、担当看護師と役割が発揮できるよう退院支援や内服の自己管理に取り組み一定の成果を得ることができたと考えます。

今後も、急性期の内科病棟の役割を果たしながら、安心・安全の看護が提供できるよう業務改善を続け、職場環境を整えたいと考えています。

**【今後の課題・展望】**

- ・3階病棟の役割を認識し、看護の質の向上を図る
- ・業務改善に向けた取り組みを継続する
- ・働き方改革の推進

## 4 階 病 棟

### 【病棟の概要】

病床数：54 床

診療科：整形外科、眼科

### 【平成 30 年度総括】

#### 入退院状況

	延べ入院 患者数	新入院患 者数	転入 患者数	退院 患者数	転出 患者数	平均在院 日数	病床利用 率
4 階病棟	15,590 人	781 人	15 人	550 人	243 人	19.6 日	79.1%

#### 手術件数

	人工骨頭・ 人工関節置換術	緊急手術	整形手術合計	眼科手術
合計	67 例	26 例	480 例	363 例
月平均	5.6 例	2.2 例	40 例	30.2 例

### 【スタッフ】

看護師長：請野 律

副看護師長：松本 明美、米加田 裕子、淵上 麗美

看護師：23 名 准看護師：3 名 ケアワーカー：6 名

### 【病棟目標】

#### 1. 看護の質の向上

- ① 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
- ② ケアの見える看護記録の充実

#### 2. 医療チームの一員として他部門と連携し、経営効果を考慮した看護が提供できる

- ① 効果的な退院支援を行い、継続看護の充実に努める

当病棟では、整形外科患者が大半で人工関節置換術や骨折、関節疾患の治療、眼科では白内障手術を 2 泊 3 日で行われています。今年度は副師長が 3 名となり、整形疾患の教育の向上を主な目標に取り組みました。学会参加や病棟での学習会を行い、新人教育の充実、スタッフの技術の向上につながることができました。また、入院支援室の開設により、外来～病棟～外来へシームレスな看護につなげるよう記録の充実に努めました。次年度は業務改善を行い、ケア時間の確保につなげたいと考えます。

### 【今後の課題・展望】

- ・チーム医療を活用し、包括ケア病棟や地域の医療・介護施設と連携した健全な病棟運営を行う
- ・業務改善を行い、ケア時間を確保する

## 5 階 病 棟

### 【病棟の概要】

病床数：38床（地域包括ケア病棟）

診療科：産婦人科、整形外科、外科、内科の混合病棟

### 【平成30年度総括】

当病棟は、急性期治療を経過し病状が安定した患者さまに対して、自宅や介護施設への復帰に向け支援を行っています。退院先の住宅環境を把握し、患者さまに合った指導や支援・調整を看護師・リハビリ技師・MSWによって協力して実施しています。住み慣れた地域でその人らしい暮らしを続けられるように、担当者が自宅訪問して住宅環境の確認をしたり、退院後に利用されるサービス担当者との共有と調整を行い、患者家族の満足を得られるように努力しております。

助産師の活動としては、外来における妊婦健診、両親学級、周産期、退院後の乳児健診・分娩後健診と、入院以外の期間にも関わりを持ち、患者さまに寄り添った看護の提供を心がけています。又、周辺の学校へ性教育の講師派遣を行いました。平成30年度は7件の中学校に命の教育に赴きました。山鹿市の子育て支援プレパパママ教室(年3回)、子育てサポーター育成講習会にも協力しております。院内に限らず在宅支援・母児支援等、地域に貢献できるようにスタッフ一同活動しております。

### 【平成30年度入退院状況】

	延べ入院患者数	新入院患者数	転入患者数	退院患者数	転出患者数	平均在院日数	病床利用率
5階病棟	9,122人	114人	311人	424人	6人	21.3日	65.8%

### 【分娩数】

	分娩数	経膈分娩	帝王切開
5階病棟	48例	38例	10例

### 【スタッフ】

看護師長：原田 靖代(認定看護管理セカンドレベル)

副看護師長：杉本 登美代(助産師)、吉里 美智代

看護師：14名 助産師：5名 ケアワーカー：3名

### 【病棟目標】

1. 看護の質向上を図るための、助産師・看護師が協力してケア提供できる体制づくり

①学習会を活用し、実践能力の向上を図る

②ケアの見える看護記録の充実

③ベットサイドケアを充実し、信頼される看護の提供

2. 医療チームの一員として他部門と連携し、経営効果を考慮した看護が提供できる

①新人教育に関わり、既存のマニュアルを行動レベルに整備する

②患者家族に合った、退院支援を行い継続看護の充実を図る

#### 【今後の課題・展望】

- ・院内外の多職種連携を強化し、地域包括ケア病棟における関わりを更に充実する
- ・混合病棟として様々な診療科の疾患に対応できる知識・実践能力向上を継続する

## 緩和ケア病棟

### 【病棟の概要】

病床数：13床(全室個室)

診療科(平成30年度の入院患者)：緩和ケア内科、内科、外科、消化器内科

### 【平成30年度総括】

緩和ケア病棟に入院される患者さまは、当院や他のがん拠点病院にて積極的抗がん治療を終えて緩和治療のみへ移行された方や、当院の緩和ケア外来・訪問看護、または地域の開業医の先生でフォローされていた方が在宅療養困難となられて入院される方がほとんどです。そのため、亡くなる方が多く今年度は退院患者の92%が死亡退院されています。終末期の看護は、患者ケアはもちろんですが、家族のケアも大切になるため今年度は「家族看護」に焦点をあて勉強会を行いました。また、異動で来たスタッフには、病棟での指導のほかに、院外の緩和ケア研修に参加し専門的知識の習得に努めました。

今年4月の医療法改定で緩和ケア病棟入院料の見直しが行われ、入院料1と2の区分がもうけられました。入院料1の施設基準は、ア:直近1年間の平均在棟日数が30日未満かつ平均待機期間が14日未満、または、イ:直近1年間の平均在棟日数が退院全体の15%以上であることとされました。当病棟は退院患者の92%が死亡されていますが、入院後症状が落ち着き、外出・外泊しながら過ごされる方もおられるため、時期を逃さず退院支援を行えるよう社会資源の勉強会、退院できそうな患者のリストアップ、患者・家族へ退院に向けての情報収集チェックリストや退院支援進行チェックリストを作成し取り組みを行いました。

また、昨年同様「緩和ケア啓発」の取り組みとして、市民公開講演会時に緩和ケアのブースの出展や市の出前講座に登録し、3月に依頼があり実施しました。

### 【平成30年度入退院状況等】

	延べ入院 患者数	新入院 患者数	転入 患者数	退院 患者数	転出 患者数	平均在 院日数	病床 利用率
緩和ケア病棟	3,050人	64人	44人	112人	1人	27.6日	64.3%

### 【スタッフ】

看護師長：堤 里美(認定看護管理者セカンドレベル)

副看護師長：弓掛 まり(がん化学療法看護認定看護師)、大坪 美香

看護師：18名(うち1名非常勤) 非常勤ケアワーカー：2名

### 【病棟目標】

1. 勉強会を活用しスタッフの専門的知識を向上させ、患者・家族ケアに生かすことが出来る
2. 退院支援に対するスタッフの意識が向上し、自宅退院患者が昨年を上回ることが出来る
3. 緩和ケアの啓発活動

4. 朝の情報共有を見直し、深夜の超過勤務を減らす

**【今後の課題・展望】**

今年度は、緩和ケア専従医師の退職で体制が変わります。その中でも緩和ケア病棟としてより専門的なケアの提供のため、スタッフこの知識の向上を図っていききたいと思います。

## 手術室・中央材料室

### 【平成 30 年度総括】

手術を受ける患者さまは、高齢化が進み、麻酔や手術に対するリスクが高くなっています。手術は、最新の機材を使用し、高度な手術が行われるようになりました。そんな中、患者さまに安心して安全な手術室看護が提供出来るようにスタッフ全員で努力をしています。

今年度は、『業務を改善し効率化を図る』を目標に滅菌物と手術材料の定数見直しを行いました。鋼製小物と材料、合わせて 124 品目の削減ができました。また、『情報の共有 術前術後訪問の結果を病棟へつなげる』を目標に、病棟にアンケートを行い手術記録の充実にとりくみました。

### 【手術件数】 ※硬膜下麻酔・全身麻酔・脊椎麻酔併用

	外科	整形外科	産婦人科	眼科	合計
全身麻酔	192	381	47	0	620
硬膜下麻酔	64	20	36	0	120
脊椎麻酔	2	4	6	0	12
局所麻酔	10	95	0	363	468
合計	204	480	53	363	1,100

### 【スタッフ】

看護師長：宮園 清子

副看護師長：福山 留美

看護師：8名 准看護師：1名 ケアワーカー：1名(第2種滅菌技師)

### 【手術室・中央材料室目標】

- 看護の質の向上を図る
  - 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
  - ケアの見える看護記録の充実
  - 情報の共有－術前術後訪問の結果を病棟へつなげる
- 医療チームの一員として他部門と連携し経営効果を考慮した看護が提供出来る
  - 看護業務を改善し、効率化を図る

### 【今後の課題・展望】

- ・人材育成に取り組み手術の技術の向上を図る
- ・看護業務を改善し、効率化を図る



## 緩和ケアチーム

### 【診療内容と現状】

平成 16 年 4 月に緩和ケアチームを発足し、癌患者さまに対する身体的・精神的苦痛の緩和を行うことを目的に、症状コントロールが困難な症例(主治医や担当看護師から依頼された症例)に対し、組織横断的に活動しています。

平成 24 年 4 月に緩和ケア病棟が開設され、緩和ケア病棟に入院されている患者さまのカンファレンス・回診も同時に行っています。

### 【スタッフ】

医師：2名

緩和ケア認定看護師：1名 リンクナース：9名(各病棟及び外来)

がん薬物療法認定薬剤師：1名 管理栄養士：1名 社会福祉士：1名

作業療法士：1名

### 【臨床業務内訳】

1. 毎週水曜日 13:00～のカンファレンス・回診・コンサルテーション活動を実施

対象患者報告数：延べ 855 人 回診者数：延べ 457 人

2. 鹿本地域緩和ケア研究会の開催(年 2 回実施)

11 月 27 日(火)

①ミニ講演会

演 題：「山鹿の緩和ケア～6 年を振り返って～」

講 師：山鹿市民医療センター 緩和ケア内科医師 坂田 典史

②症例発表会(4 題)

きくか松岡クリニック：松岡三正氏「在宅緩和ケアの経験」

宮坂歯科医院：宮坂圭太氏「がん患者の口腔ケア」

山鹿中央訪問看護ステーション：豊田智子氏

「意思決定を自分でされた利用者さんから学んだこと」

山鹿市民医療センター：堤里美「患者・家族の立場から学べたグリーフケア

～最後まで家族の思いに寄り添うことの大切さ～

\*参加人数 84 名

3. 第 22 回日本緩和医療学会学術大会への参加

\*薬剤師 1 名、看護師 3 名

日本ホスピス緩和ケア協会九州支部大会への参加

\*看護師 3 名、社会福祉士 1 名

### 【今後の課題・展望】

1. 院内および地域における緩和医療のさらなる普及

2. 緩和ケアチームのスタッフ育成と緩和ケアチーム活動の充実

## 褥瘡対策チーム

### 【平成 30 年度総括】

チーム活動として、褥瘡保有者及び褥瘡因子の高い患者に関し適切な評価と、定期的を選任医師と褥瘡経験看護師による回診を行ない、適切な治療の提供と予防介入に努めている。また院内褥瘡発生を軽減させるためチーム委員及びスタッフの知識・技術の向上のため回診参加や研修を通しアセスメント能力を習得できるよう支援してきた。H30 年度から診療報酬改訂に伴い褥瘡危険因子に新たに「スキナーケア」が追加された。当院でもフローチャート運用がスタートしたため、全スタッフが適切な評価ができるよう、各病棟のリンクナースに運用の説明を行い、その後各病棟で伝達を行った。また、厚生局の適時調査で褥瘡対策計画書は褥瘡チーム員が作成しなければならないとの指摘を受けたことで、これまで通り入院時の褥瘡危険因子で、褥瘡保有患者とリスクがある患者は褥瘡対策計画書を作成してもらい、後日各病棟のリンクナースが確認・更新する様にした。今後もこの確認・更新が徹底できるよう委員会を通し呼びかけていきたい。H30 年度は、褥瘡院内発生に大きな変化はないが、新規採用者も多く、スタッフが褥瘡に関心を持ち、早期に褥瘡予防対策を取ることができるよう、リンクナース個々の知識や技術の向上を図り、病棟スタッフへの指導ができ褥瘡予防対策が適切に行えるよう支援していくことが重要と考える。

### 【スタッフ】

専任医師：工藤 智志

専任看護師：上村 洋美、古閑丸 由希、古家 紀世美

病棟リンクナース：伊藤 しのぶ、大坪 美香、赤星 恵美、磯田 由佳、實田 和広、福島 郁子

栄養士：永田 美華

薬剤師：松田 光司

### 【本年度の活動】

- ・毎月第 1 火曜日委員会開催にて、各病棟より褥瘡保有患者(持ち込み・院内発生)褥瘡診療計画書作成患者数報告と症例検討
- ・褥瘡回診：毎月第 2・4 木曜日 15 時から褥瘡回診
- ・研修開催：4 月 新人研修「入院フローチャートと予防介入」

	褥瘡診療計画書 作成数	褥瘡保有患者数 (持ち込み)	褥瘡保有患者数 (院内発生)	褥瘡回診患者数
2 階病棟	124 名	7 名	5 名	0 名
HCU	2 名	0 名	0 名	0 名
3 階病棟	263 名	27 名	5 名	63 名
緩和ケア病棟	76 名	5 名	4 名	1 名
4 階病棟	154 名	5 名	7 名	19 名
5 階病棟	102 名	6 名	2 名	9 名
合計	721 名	50 名	23 名	92 名

## 糖尿病対策委員会

### 【平成 30 年度総括】

平成 30 年度は新しく川崎医師を迎え、新体制でのスタートとなりました。本年度は、新たに 2 名が熊本地域糖尿病療養指導士(L-CDE)に合格し、有資格者:日本糖尿病療養指導士(CDEJ)6 名、熊本地域糖尿病療養指導士(L-CDE)4 名(他 1 名)となり、より専門性を活かしたチーム活動と各現場での療養指導が可能となりました。

また、本年度は教育入院の全体的な見直しを行い、パスの改善や、インスリン・血糖測定時の「インスリン指示表」を作成し、全館統一した手技・教育の確立ができるよう努めました。年 2 回開催する血糖値改善セミナーでも、ブルーサークルメニューや災害対策など具体的内容も充実させ多数参加頂いています。

糖尿病は、生涯治療を続けていかなければならない病気です。患者さま自身が糖尿病とうまく向き合い、健康人と変わらない日常生活を送られることを目標に、チーム一同日々の自己研鑽に努め患者さまに寄り添った療養指導が行えるよう努力していきたくと思います。

### 【本年度の活動】

#### 1. 血糖値改善セミナー

①第 20 回血糖値改善セミナー 平成 30 年 7 月 7 日 参加者:11 名

内容: 病気の知識や治療について、座ってできる運動、果物のカロリー

(ブルーサークルメニューの食事を実際に食べていただくことを予定していましたが、前日の大雨の影響により急遽内容を変更しての実施となりました。セミナーの最後には「糖尿病災害時サバイバルマニュアル」をお渡しして災害時の対応についての話も行いました。)

②第 21 回血糖値改善セミナー 平成 30 年 12 月 8 日 参加者:13 名

内容: いつおきるかわからない災害、ブルーサークルメニューって何?、  
いつもの検査、糖尿病クイズ

今回は事前申込とし、ブルーサークルメニュー(弁当)を実際に食べながらのランチョン形式としました。20 回で参加予定だった方々や新たな希望者にも参加していただきました。また、災害時の対応や○×の参加型イズを行い、参加者みんなで糖尿病について考えました。

#### 2. フットケア外来:毎週木曜日、糖尿病療養指導士の看護師がフットケアを行っています。

今年度は患者数も少なかったため、外来から依頼があった時に不定期に対応するような状況でした。

#### 3. 出前講座:山鹿市が実施する出前講座で「糖尿病にならないために」を開催していますが、

今年度は申し込みがなく開催できていません。題名や方法の再考が必要と考えます。

### 【今後の課題・展望】

・外来,入院での療養指導の更なる充実とスタッフのスキルアップ。CDE の育成推進。

- ・フットケア外来の充実
- ・地域住民への啓蒙活動の充実。地域(山鹿地区)での連携。